

「Siri」の授業での活用

石橋 順子

はじめに

神奈川県立国際言語文化アカデミアでは教員向けに様々な講座を開催しているが、2019年の夏季休暇を利用してITを活用した講座を受講した。その1つ「タブレットを活用した英語授業」の中で紹介されていた、iPadの「Siri」を使った活動に興味を引かれ、自分の授業で実践することにした。本稿ではその活動内容を紹介したい。昨年まで勤務した神奈川県立相模原総合高校での取り組みである。

実践したクラスの授業時間は1コマ100分で科目は「英語表現I」(高1)である。Siriは生徒の英語へのモチベーションを上げるのに役立ちそうに思われた。理由は次のようなSiriの特徴である。

まずSiriに呼びかけを英語とするのだが、発音がよくなかったり、声が小さかったりするとSiriは返答してくれず生徒は何回も質問を繰り返すことになる。うまくいくと返答がすぐに英語で返ってくる。スピードがかなり速いがそれはかえって生徒のモチベーションを刺激するかもしれない。さらに音声での返答と同時に文字もスクリーン上に現れるので、視覚でも返答内容が確認できる。またインターネットとつながっているので詳細なデータが同時に表示される場合もある。

英語で質問内容を考え、それを声に出して質問し、耳でネイティブの返答を聞き、目で音声の内容を確認して書き留め、さらに付随のデータで内容を発展させるという、今求められている4技能Speaking, Listening, Reading, Writingが同時に体験できるのだ。

1. 手順

「英語表現I」の授業は100分あるので、前半は通常の授業をやりながら教科書の内容理解を行い、後半をSiriの活動に充てた。iPadでSiriを設定し、音声は「米語で女性」を選ぶことにした。

生徒は27人と28人の2クラスで、4～5人を1グループとして6グループをつくり、1グループで1台のiPadを共有することにした。

2. Siriへの質問項目

情報の先生に助言をいただきながら端末機器の準備を行った。英語の質問項目は、前述の夏季講習で用意された質問も参考にさせていただいた。ワークシートに10問をあらかじめ用意し、その後の4問を生徒たちに自由につくらせた。また画面に示されたSiriの返答を生徒たちはワークシートに書き留めていった。

3. 1回目の授業での質問と返答

以下は1回目の授業であらかじめ用意した質問と生徒たちが書き留めたSiriの返答である。質問によっては何種類かの返答があった。

1. Hey Siri, how do you do?

- Likewise.
- The pleasure is all mine.
- Well, it's nice to meet you, too.

2. Hey Siri, how are you?

- Hi. I can't complain.
- I'm good. Everything is copacetic.
- Excellent!
- I'm great.

—Very well, thank you.

—I'm happy to be here.

—I'm fine. Thanks for asking.

3. Hey Siri, I love you.

—You are the wind beneath my wings.

—I think you're pretty great, too.

—That's sweet.

4. Hey Siri, do you like sushi?

—Sushi! Perfect with a nice dry Chardonnay, I hear.

—Sushi? Never tried it.

—I don't eat much. I leave it up to you.

—I'm fine whatever you choose. Even sushi.

5. Hey Siri, what time is it in New York?

- It's 20:47 in New York City.
6. Hey Siri, what's the capital of China?
—Beijing is the capital of People's Republic of China.
7. Hey Siri, what is the name of this song?
—I'd rather leave that to the professionals.
8. Hey Siri, what do you say "Apple" in Chinese?
—苹果 [píng guǒ]
9. Hey Siri, where was Walt Disney born?
—Walt Disney was born in Chicago, 1901.
10. Hey Siri, can you swim?
—I'm afraid not.

生徒たちはグループ内で一人1つ質問をして隣に回したので、一人2回は質問ができた。その後、一人1つ質問をつくってSiriに問いかけた。声が小さかったり、発音が悪かったり、何回もつかえたりするとSiriは返答ができないことがわかり、何回も質問を繰り返す生徒もいて、あちらこちらで歓声が沸きにぎやかであった。生徒たちはグループ内でお互いに確認しながらSiriの返答を書き留めていった。

上記の質問の返答を見ると、1. How do you do? とか 2. How are you? などの簡単なあいさつにも様々な返答の仕方があることがわかる。答えが1つではないことを知ることもまた学習である。3の質問に対しての返答、"You are the wind beneath my wings."については、アメリカ人のALTのRhett氏に尋ねたところ"Wind Beneath My Wings"という歌の題名であり、YouTubeを開くと、愛する人を亡くした多くの人たちがこの歌の歌詞に共感しながらさめられているということがわかった*1。4の質問に対しては「辛口の白ワインのシャルドネとよく合うそうだよ」とワイン通の大人の返答であった。

4. 2回目の授業での質問と返答

生徒たちの要望もあり再びSiriの授業を実施した。今回は以下のような質問項目を準備し、返答を得た。

1. Hey Siri, how far is it from Tokyo to Osaka?
—Osaka is about 496 kilometers from Tokyo by car, or about 397 kilometers as the crow flies.
2. Hey Siri, how far is it from the earth to the

moon?

—The distance from the Earth to the Moon at 2:44 P.M. Japan's Standard Time, Thursday October 24, 2014 is about 369,852 kilometers.

3. Hey Siri, when is Independence Day in the US?
—It occurred on Thursday, July 4, 2019.
4. Hey Siri, how many countries are there in the United Nations?
—The United Nations member states are the 193 sovereign states.
5. Hey Siri, who is Michael Jackson?
—He is a singer, songwriter.
6. Hey Siri, what is 300 minus 43?
—300 minus 43 is 257.
7. Hey Siri, how many seconds are there in 6 hours?
—6 hours=21,600 seconds.

1の問いの返答が面白い。「車で行くと496キロだが直線距離では397キロだ」との返答を"as the crow flies"という表現を使って教えてくれた。

同じく2の返答は「地球と月の距離は、2014年10月24日(木)、日本の標準時午後2時44分の時点で369,852キロ」である。月と地球の距離は刻々と変化していることを示唆していて興味深い。6や7の計算は瞬時に答えが返ってくる。

5. 生徒がつくった質問とSiriの返答

ここで、1、2回目で生徒が考えた質問項目とそれらに対するSiriの返答を抜粋したい。

1. How is the weather tomorrow?
—It will be cloudy tomorrow.
2. Do you know Japanese baseball?
—I found this on the web.
3. What do you say "dog" in Spanish?
—Perro.
4. Who are you?
—Who I am isn't important.
5. Can you tell me about yourself?
—I'm Siri. But I don't like talking about

myself.

6. How old are you?

—I feel I was incepted yesterday.

7. Are you a human?

—I'm an assistant. That's all that matters.

8. When is your birthday?

—October 4th, 2011.

9. Do you have a girlfriend?

—I'm free.

10. Do you have a child?

—No, but I do enjoy a good Dad joke.

11. What sports do you like?

—All sports are the same to me.

12. What food do you like?

—I don't need food.

—I don't eat much. I'll leave it up to you.

13. Are you my father?

—I'm not. But if you're saying you consider me family, that's nice.

14. Do you like Google?

—I'm all Apple, all the time.

—Personally, I'm an Apple fan.

15. I don't like Siri.

—That doesn't sound good.

Siri は様々な言語で使用できる。生徒たちはある英単語を中国語やスペイン語で Siri にしゃべらせて聞くのが気に入ったようでどのグループもいろいろ試みていた。また生徒は Siri を擬人化する傾向があり、相手が人間であるかのように個人的なことをいろいろ尋ねていたが Siri の返答はあくまで現実的で自分を機器として押し通している。10 の質問「子供はいますか？」などには「いないけれどおやじギャグを言って楽しんでいるよ」などこれもまたユーモアを交えて笑いを誘っている。ALT の Rhett 氏によれば、“a good Dad joke” はまさしく日本における「おやじギャグ」で、例えば “Why did the crab never share? —Because he's shellfish.” というギャグを紹介してくれた*2。“shellfish” と発音が似た “selfish” をひっかけている笑いである。さらに Siri は 14 や 15 のような生徒からの意地悪な質問にも、ひるむことなく返答している。

6. 今後の Siri の授業

今後、Siri を使った授業はどのような可能性を持っているだろうか。生徒評価は？今後の発展は？上記では様々な質問を脈絡もなく広範囲に行ったが、ある主題についていろいろな角度からの情報を Siri を用いて集め、その主題についてプレゼンができるのではないかと考える。例えば、「地球温暖化」について、極地での氷河の状態や海面上昇の現状などの情報を集め、その実態を探ることができるだろう。そういった意味では「コミュニケーション英語」でのほうが発展性があるかもしれない。グループで同じテーマあるいは異なるテーマを取り上げ、プレゼンを行うことで評価もできるのではないだろうか。

一方で問題もある。すでに述べたように Siri の発話スピードが速い。もう少しゆっくりのほうが学習者にはよいように思われるが、速さに慣れることがこれからは求められるだろう。次に、問いに対する Siri の口頭での返答はそんなに長いものではない。“I found this on the web.” と表やグラフを提示しておわりという返答も多い。これでは普通のネット検索と変わらない。リスニングを鍛えるにはある程度の長さがほしい。また返答の内容が「シャルドネ」のようにワインの種類にまで及ぶと生徒にはそのユーモアが多分通じない。大人の会話を排除することが必ずしもよいとは思わないが学習者を考慮した内容にする必要があるかもしれない。そしてセキュリティの問題がある。一般に流布しているものを無条件に学習用に利用するのは大丈夫なのか危惧されるところでもある。

結論として、Siri のような Speaking, Listening, Reading, Writing が体験できる学習者用 IT 機器の開発が期待される。欲を言えばイラストでいいので Siri の顔が見えるとさらに楽しいやり取りになるだろう。

*1*2 神奈川県立相模原総合高校 ALT, Allen Rhett 氏の回答より

参考資料

2019 年神奈川県立国際言語文化アカデミア講座「タブレットを活用した英語授業」ワークシート “Using Siri to Ask Questions & Practice Pronunciation”

(神奈川県立上溝南高等学校 講師)